

## 高気圧酸素治療装置のご紹介

当院では米国セクリスト社製の高気圧酸素治療装置を導入しています。  
この装置は患者1名を収容し、酸素加圧または空気加圧を選択できる装置として設計され、ASME, PVHO-1(米国機械学会/有人压力容器の規格)に適合しています。

### 高気圧酸素治療の適応

#### 救急的適応疾患（発症後1ヶ月以内）

- 減圧症又は空気塞栓

#### その他

- 突発性難聴
- 急性一酸化炭素中毒、その他のガス中毒
- 重症軟部組織感染症、頭蓋内腫瘍
- 放射線又は抗がん剤治療と併用される悪性腫瘍
- 難治性潰瘍を伴う末梢循環障害
- 骨髄炎又は放射線障害
- 重症頭部外傷後、開頭術後の意識障害、脳浮腫
- 急性抹消血管障害
- 重症の低酸素脳症
- 網膜動脈閉塞症
- 脳梗塞
- 腸閉塞
- 脊髄神経疾患
- 皮膚移植



# DOCTORS

北九州総合病院広報誌

## 突発性難聴と高気圧酸素治療



耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長  
上田 成久



北九州総合病院は、「安全かつ適切な医療」「患者本位の医療」を実践し、健全なる地域社会の実現に貢献します。



耳 鼻 咽 喉 科 ・ 頭 頸 部 外 科 部 長  
 ウ エ ダ ナ リ ヒ サ  
**上田 成久**  
**突発性難聴と  
 高気圧酸素治療**

### 突発性難聴とは

突発的に発症する原因不明の急性感音性難聴です。何の前触れも無く急に左右の耳の一方(ごくまれに両方)の聞こえが悪くなる疾患です。「突然スイッチが切れたように聞こえなくなった」「急に耳に膜が張ったようになった」等のように、いつどこで悪くなったかはっきり自覚できるのが特徴です。「いつからかははっきりしないが、徐々に聞こえなくなった」というような訴えは突発性難聴とは異なると考えてください。

突然、音をうまく感じ取れない難聴(感音難聴)のうち原因がはっきりしないものの総称で、幅広い年代に起こりますが、特に働き盛りの40～60歳代に多くみられます。突発性難聴は、通常左右いずれか片側の耳に起こるのが普通で、再発はほとんどありません。健康で耳の病気を経験したことのない人が、突然に耳が聞こえなくなります。

起床後や電話をかけている時に気づいたり、ヘッドフォンで音楽を聴いて初めて片方の耳が聞こえていない事に気づいたりすることもあります。

難聴の程度は人によって様々で、まったく聞こえない人もいれば、高音が聞こえないが日常生活に支障のない人もいます。また、症状が自然に回復したり悪化したりすることは多くありません。聴力が改善したり、悪化したりを繰り返すといった症状の波はありません。

難聴の発生と前後して、耳閉感(耳が詰まった感じ)や耳鳴り、めまい、吐き気などを伴うケースも多く、耳鳴りで受診したら突発性難聴だったという人もいます。難聴やめまいが起こるのは1度だけで、メニエール病のように繰り返すことはありません。

突発性難聴は、以上のような症状を問診で確認し、さまざまな聴力検査や画像診断を行って診断されます。発症後すぐ治療を受けないと、難聴や頑固な耳鳴りが残り、聴力を失うこともあるため、早めの受診と治療開始が大切です。

### 突発性難聴の原因

突発性難聴の原因ははっきり分かっていませんが、大きく2つの説があります。

一つはウイルス説で、ヘルペスウイルスの仲間が内耳という音を感じる神経に入り込みダメージを与えると

いうものです。突発性難聴は一度かかると再発するケースは稀なので、ウイルス説の支持の理由になっています。

もう一つは血流障害説で、心筋梗塞や脳梗塞のように内耳に血液を供給する血管が詰まり難聴を来すというものです。突然発症するという状態は心筋梗塞に似ていますし、血流が戻ると回復するのではないかと説明されています。

いずれの説もまだ確定されておらず、研究が進められている状況です。ストレスや過労、睡眠不足などがあると起こりやすいことが知られています。また、糖尿病が影響しているともいわれています。

### 突発性難聴の治療

難聴は突発性難聴以外の病気にもみられます。脳腫瘍が原因の難聴、低音だけ難聴になる急性低音障害型感音難聴、精神的ストレスから起こる心因性難聴や詐聴(さちょう)などがあります。このため、まずは難聴の原因となる病気を突き止める検査を行う必要がありますが、突発性難聴は早期治療が重要なため、治療と検査は同時に進めていきます。

治療は、複数の薬剤や治療法を組み合わせで行います。中心となるのは薬物療法で、内服や点滴の副腎皮質ステロイド薬を使用します。また、血管拡張薬(プロスタグランジンE1製剤)やビタミンB12製剤、代謝促進薬(ATP製剤)などを使うこともあります。ストレスの影響が考えられるときは安静にして過ごします。

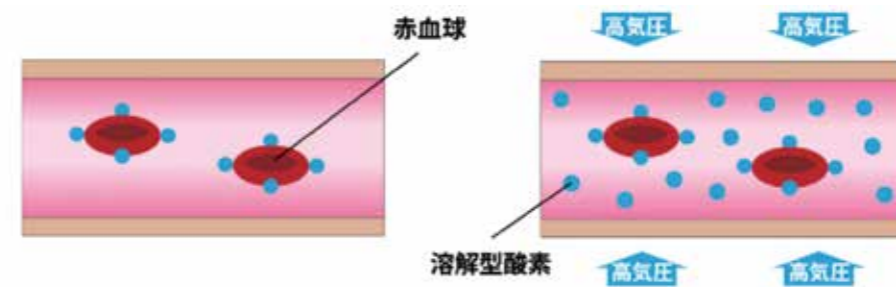
十分に回復しない場合や全身投与が難しい場合は、耳の中にステロイドを注入する「ステロイド鼓室内注入療法」が行われることがありますが、その効果に対する評価は定まっていません。

発症後1週間以内に、それらによる適切な治療法を受けることで、約40%の人は完治し、50%の人にはなんらかの改善がみられます。ただし、治療開始が遅れば遅れるほど治療効果が下がり、完治が難しくなってしまうので注意が必要です。

当科ではこれらの治療に加え高気圧酸素療法も取り入れています。

### 高気圧酸素療法とは

大気圧よりも高い気圧環境にしたタンクの中で患者さんに高濃度の酸素を吸ってもらうことにより、血液中に多量の酸素を平常時の10～15倍を溶解させ、身体のすみずみまで酸素を行きわたらせ病態の改善を図る治療法です。



平常時の10～15倍以上の酸素量にすることで、血液が届きにくくなっている部分へ十分な酸素を与えることができるため、組織の低酸素状態を改善し、この作用が突発性難聴をはじめ様々な疾患に効果があります。

治療はタンクに入り、大気圧(1気圧)から2気圧まで気圧を上げ、その中で約90分間過ごしていただくこととなります。通常1日1回の治療を10～30回程度行います。